

2026 年 9 月 15 日

報道関係者 各位

兵庫医科大学

病院内に不安や緊張和らげる「ホスピタルアート」 武庫川の生き物キャラクター化も 診察の待ち時間が親子の遊び時間に



武庫川に住む生き物をモチーフにしたキャラクターたち



キャラクターの絵探しを楽しめる 9 階のプレイルーム

診察前や入院中の患者さんとその家族の不安を和らげて、少しでも明るい気持ちになってもらおうと、2026 年 9 月 24 日に開院する兵庫医科大学病院（所在地：兵庫県西宮市、院長：池内浩基）では、小児エリアと産科婦人科の病棟や外来など院内各所で「ホスピタルアート」を採用しています。

カワセミやトノサマガエル、ナナホシテントウ、アカハイモリー。3 階の小児科外来では、西宮市のキャラクター「みやたん」の制作者で、絵本作家のたかいよしかずさん（西宮市）が武庫川に住む生き物をモチーフにしたオリジナルのキャラクターが、目を引きます。9 階の小児科病棟では、病室のドアにキャラクターとレースカーのイラストが描かれ、プレイルームの壁では大きな木に隠れたキャラクターの絵探しを楽しむこともできます。レースカーの側面には病室番号を記し、子どもたちが自分の病室に愛着を持ちやすく、迷わずに戻れる目印としても機能します。

医療現場を患者さんや職員らにとって心地よい空間にする取り組みは「ホスピタルアート」「ヒーリングアート」などと呼ばれ、英国など欧米では広く普及しています。2000 年代に入ってから、日本でも広がり始め、建て替えや改築を機に採用する施設が増えているといいます。

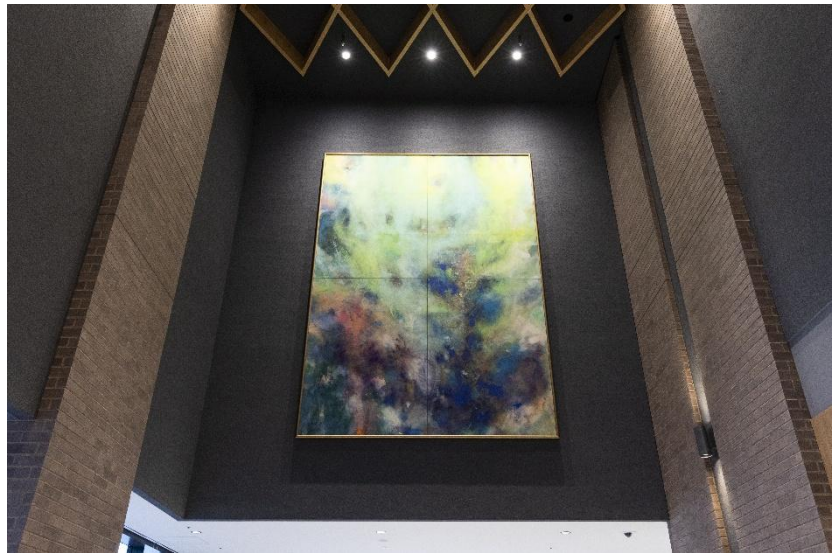
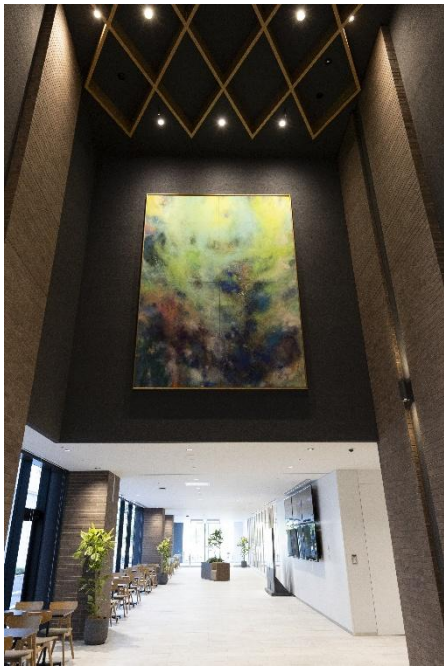
当院では、地域に根ざした病院づくりを進める中、市内のアートプロデュース会社「アートココ」の協力のもと、市内や兵庫県にゆかりのある作家やアーティストを含む 4 人に制作を依頼することとなりました。同社の担当者は「大学病院の待ち時間を知ることの面白さや、知識を深める楽しさにつなげることを目指した」と、院内で展開するホスピタルアートに込めた思いを話します。

近隣住民も利用可能な 1 階の「医大モール」には、宝塚市を拠点に活動するアーティストの柴田知佳子さんが「生命のつ力」をテーマに描いた幅が 2.7 ㍎、縦が 3.8 ㍎ある大型作品が飾られています。6 階の産科婦人科の病棟・外来では、海外でホスピタルアートを手掛けたこともあるデザイナーの赤羽美和さんが女性のための環境づくりをテーマに、病院スタッフが描いた模様をふだんに取り入れて作り上げた優しい色合いのアートが飾られています。病棟階のラウンジでは、カラフルな糸を自在に操り鮮やかな作品に仕上げるテキスタイルアーティストの吉村直美さんが、階ごとに異なるテーマ色でまとめたレリーフが、心地よい空間を演出しています。

小児科外来の看護師の松岡楓さんは「アートのある明るい空間で仕事をするのが楽しみ。受診する小児患者さんらの不安を少しでも取り除けるように心掛けたいです」と話しています。



小児科病棟の「CAR RACE GO!GO!」



㊤㊤1階の「医大モール」に飾られた大型の絵画。作品タイトルは『Deep Flow』



6階レディースフロア。フオトスポットとしても活用する



階ごとに異なるカラーでまとめたレリーフ（左上）

ホスピタルアートの整備に向け、2005年4月1日から5月30日まで実施したクラウドファンディングでは、目標金額600万円に対し、14,196,619円のご支援をいただきました。県内外の多くの皆さまから温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

【取材に関する問い合わせ】

兵庫医科大学 総務部広報課 【電話番号】 0798-45-6655 【E-mail】 kouhou@hyo-med.ac.jp